企業名：　　保土谷化学工業

レポート名：　統合報告書 2021

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

全体的に、統合報告書から将来の姿を理解することはできる。

まず、短期的な将来の姿についての感想を述べる。保土谷化学工業は新・中期経営計画として、「SPEED25/30」を公表している。これは、2030 年度にありたい姿を示すとともに、2025 年度までにその姿を目指すものである。「SPEED25/30」が策定された目的としては、「激変する社会環境の中で、社会課題の解決を通して価値を創出することにより、長期的に継続して成長し、その結果として経営理念を実現し、企業の社会的責任を果たすことを目指して策定した」と説明されている。また、それを達成するために必要なものとして、「事業強化」、「規模拡大」、「効率化」、「従業員視線」、「社会的視線」、「株主視線」を挙げている。

この「SPEED25/30」により、保土谷化学工業が重視していることが読み取れる。例えば、保土谷化学工業はサステナビリティ経営の推進を明記していて、SDGs に配慮した取り組みを具体的に説明している。この点は非常に評価できる。特に、リスク管理の説明に見開き 2 ページを使っていることで会社がサステナビリティ経営に重きを置いていることが伝わってくる。

次に、長期的な将来の姿について述べる。社長メッセージに、「保土谷化学工業は 200 年企業を目指す」と書かれている。そのために、保土谷化学工業は地球環境、社会、人材、ガバナンスに配慮した経営を行うと明言している。また、グローバルな視点を持ちつつ包括的な企業活動を推進するとも明言している。よって、保土谷化学工業は、世界的な評価がとても良く、高品質な製品を売り出す化学メーカーを目指していると考えられる。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

統合報告書によると、保土谷化学工業の競争優位性は主に、長い歴史の中で培ったスキルや経験を活かした研究開発であると理解できる。特に、機能性色素セグメントのように、**社会からのニーズに合わせた研究開発**と**最高峰の品質の維持**は、ほかの会社には真似できないような優位性があると考えることができる。また、「HONKI2020」での有機ＥＬやアグロサイエンス事業への投資が成果を上げていることからも、研究開発に関する競争優位性の裏付けが取れているといっていいだろう。

また、化学工業系の会社の中でも、保土谷化学工業は特に環境に配慮していることも、優位性を生み出していると考えられる。地球環境を意識している経営を行っていて、実際に CO2 排出量は年々減少している。環境に配慮していることは、世界的な評価を高めることができ、かつ持続的な社会貢献ができるということを意味しているので、会社の価値を高め

ることができる。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

私は、２で述べた競争優位性に、持続力はあると思う。その理由を、２つ述べる。

１つは、品質の良さを維持するための取り組みを積極的に行っているからである。体系に基づいた品質保証活動と、実際に国際規格を取得していることによる客観的評価がそれを証明している。

もう一つの理由は、「SPEED25/30」において、環境への配慮を強調しているからである。具体的な取り組みを明言していることはそれだけでも十分な意義があると考える。

4.　この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

統合報告書によると、「保土谷化学グループは、「経営理念」「VISION」を実現し、企業価値を高めるため、役職員の「エンゲージメント向上」「多様な人材の活用と役職員の健康維持・増進」を促進し、「役職員全員が働きがい（仕事のやりがい＋働きやすさ）を実感できる」ことを目指しております」と書かれている。この文言の通り、保土谷化学工業は女性従業員率が年々上昇しており、また、専門的な知識を持ったキャリアから数多くの外国籍従業員までの幅広い人材がいて多様性が担保されているため、自分の価値観や発想力を広げ、高めることができると考える。

また、環境に配慮した事業を世界規模に展開する、グローバル・ニッチ分野の化学メーカーというオンリーワンな会社に勤めることで、**自分の革新的思考能力を高めることができると考える**。これは、ほかの会社に勤めてもあまり得ることのできない、貴重な経験であると思う。

5.　報告書にはどのような改善余地があるか

上記にも述べたが、保土谷化学工業は、「環境に配慮した事業を世界規模に展開する、グローバル・ニッチ分野の化学メーカーというオンリーワンな会社」であるため、そこをもっと強調すべきだと思う。例えば、競合他社が複数存在する場合だと創造することのできない価値（専門的なものなど）を、保土谷化学工業ならば創り出せるということなどである。

また、全体的に、「保土谷化学工業にしかできないこと」をもう少し意識して統合報告書を作れると優位性が見えやすくなるかもしれないと感じた。例えば、環境に配慮していることや、人材の育成に力を注いでいること、サステナビリティ経営を意識して経営プランを作り上げていることは分かったが、それらのことはいずれも世界的なトレンドであり、「保土谷化学工業にしかできないこと」ではないことだと思う。もちろん、それらのことを実現することは大変なことであり、重要なことであるが、「当たり前のこと」として認識せざるを得ない気はした。

結論として、「当たり前のこと（現在、企業を経営する上で社会から求められている最低

限のこと)」を実現するのはもちろんのこと、「保土谷化学工業オリジナルのポリシー・プラン」を設計、記載することが必要だと感じた。